

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400454		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	グループホームみのりかじか(1階 三徳) まとめ		
所在地	鳥取県東伯郡三朝町山田653-1		
自己評価作成日	令和 2 年 12 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方一人ひとりの思いを大切にして安心安全な生活が送れるよう支援している。利用者さんの状況を密に報告・相談しご家族との関係がうまくいくように努めている。お風呂はラジウム温泉を源泉からひいており心も体もゆったりと寛いでいただいている。夏は熱中症対策として、経口補水液を作り飲んでいただいている。冬はインフルエンザ予防のため、紅茶を飲んでいる。年間を通して温度、湿度の管理に努めている。コロナ禍の中、感染予防のため、こまめに手洗い、手指消毒、手が触れるドアノブ、手すり、椅子、ソファ等(1日3回)消毒をしている。今年度はコロナ禍の為、ご家族様の面会制限となり、利用者様のストレスがたまらないように、3蜜に気をつけて、花見、紅葉狩り、散歩 花壇を作った。来年はリモートによる面会を開始します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、三朝温泉街の入り口に立地し、お風呂に源泉からひいた温泉を利用している。管理者は介護労働安定センター主催の「コミュニケーション研修」を受講し、利用者と職員間の行動指針を作成しサービスの向上を目指している。コロナ禍で行事ができない中でも、利用者の希望で馴染みの理髪店、町外のたい焼き屋、パン屋にでかけたり、弁当を持参しての紅葉狩り、庭での焼きいもなど、生活を楽しめるよう工夫している。外泊希望する家族の思いを聞き、本部とも相談し、外泊ができた事例もある。コロナ禍において、法人本部の指示による感染症予防対策を職員全員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成29年度より、新たに理念を作り、毎朝申し送り時に理念を唱和して、意識づけをしている。ミーティング、ユニット会議で振り返りを行い日々の支援に繋げている。	理念を玄関・事務所・リビングに掲げ、毎朝唱和している。理念をもとに月目標をたて、職員の意識づけをし、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三朝町内の行事に参加、スーパーへ買い物、「縁満」へ外食や喫茶。地区内散歩、なじみの理髪店へお連れしている。、地区内で音読教室を開催、地域交流会には地区の方が参加して下さっていたが、今年度はコロナの為出来ていない。	例年であれば、町や地区の行事への参加や近隣の店へ外出をしていたが、今はコロナ禍のため自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者さんは、地域に出て地域の方との交流が困難な状態になられた為、職員が地域の一斉清掃に参加。音読教室の時に認知症に関しての情報提供をして今年度はコロナの為出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、活動報告、気づき、事故報告等を報告、助言を頂き、意見交換を行っている。コロナの為、書面を送り、意見、質問があれば書面で送っていただき、再度、運営推進会議録をおくっている。	会議には、利用者・家族・区長・民生委員・地域住民・包括支援センター・役場職員がメンバーとなっている。今はコロナ禍のため、書面を送り、確認と意見を返信してもらうやり取りをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で情報提供、アドバイスをいただいている。困ったことが発生した時は役場に相談にいっている。	役場とは日頃から相談等できる関係ができており、運営推進会議への参加もあり、情報提供、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加、勉強会でご利用者のリスクを話しあい、ケアの振り返りを行い、危険度の高い方は見守りのしやすい所へ、居室の変更、身体拘束・虐待防止委員会を設置し取り組んでいる。(3ヶ月に1回)	身体拘束虐待防止委員会を設置し「虐待の芽チェックリスト」「高齢者虐待防止のセルフチェックリスト」「不適切なケアに関するアンケート」など職員自身の対応を見直す取り組みを行った。	離床センサー等を使用する場合は、本人・家族の同意あるいは、介護計画に記し、経過を観察してはどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修、勉強会の実施、日々の生活の事で話し合い振り返りながら防止に努めている。毎日の申し送りの時にも、話しあって実践に繋げている。身体拘束・虐待委員会を設置し取り組んでいる。(3ヶ月に1回)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修があれば参加している。現在2名の方が利用されている。コロナの為今年度は研修に行けてない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用される方には、入所前に面接を行っている。施設の見学、通信等を見て頂き、施設の様子を把握していただけるよう努めている。ご家族の思いもお聞きしている。契約時に重要事項、リスク等説明、納得いただいて、契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みのり福祉会の中に、高齢者福祉部会があり、共通のアンケートを実施している。アンケート結果を職員会で報告、改善できる事を話し合いをする。運営推進会議でも報告している。	定期的なお便りや電話などで様子を伝え、意見・要望を聞いている。法人全体で利用者アンケートを行い、運営に反映させている。	コロナ禍であり、今以上に家族との連携を図ってほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、職員会で意見、要望等話し合い業務に反映させている。職員会に本部からも参加があり職員の思いは本部にも届くようになっている。管理者会議も開催され運営に反映されている。	毎月ユニット会・職員会を開き、意見・要望等話し合っている。より話しやすい関係を築くために、朝の申し送り時に、1人一言、相手に感謝や称賛を伝える取り組みをしている。年1回施設長との面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で資格取得に向けた支援を行ったり、研修に出来る限り参加してもらっている。向上心が持てるように努めている。移動願いへの心配りもされている。給料の見直しもされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はホームを訪れ職員の勤務状態を把握している。毎月の勉強会、外部研修に参加し職員に伝達講習をしている。接遇委員会が設置され委員の人を中心に取り組んでいる。中堅職員研修、管理者研修も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修。町内の福祉施設による「三朝をなんとかしよう会」で、地域に対しての取り組みや、情報の共有を図っている。町内スポーツ大会では他施設とチームを作り参加。認知症カフェも月1回担当、今年はコロナで出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接、施設の見学など関わりを多く持ち、本人の思い、不安等お聞きしている。少しでも安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族とお話しをして、利用者の方への思いをお聞きし、どのような支援が出来るか話し合う、感じた事、希望、意見、要望など遠慮なくお話しして下さるようお願いしている。近況もお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネよりの情報、認定情報、入所施設よりの情報、ご家族の思いなどを元に、安全に生活が送れるように最初、1ヶ月の支援計画を作り、日常生活が上手くいくか観察し、3ヶ月のサービス計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしながら職員がしてあげるのではなく一緒にすることを大切にして、本人の持っている力を発揮していただけるよう支援している。家事、料理、買い物と一緒にしている。高齢化・介護度が高くなり、思うようになかなかしてあげられない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話や毎月お送りするお便り等で、日々の様子、診察結果をお伝えしている。ご家族の思い等お聞きし、今後のことも相談して、一緒に本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スポーツ大会や福祉の里祭りに参加、当施設の主催する地域交流会に地域の方をお招きし馴染みの方とお話や、写真をとる等関係が途切れないようにしている。今年度はコロナの為出来ていない。	コロナ禍のため、大きな行事は開催、参加できていないが、馴染みの理髪店へ行くことや、地域のゴミ捨て場に行く途中や散歩で出会う近所の方との交流を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士お話しが出来る方、他ご利用者と馴染まない方それぞれであるが、孤立されないよう職員が間に入り支援している。又トラブルが起きないように席のセッティングに気をつけている。又必要に応じてユニットの移動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事や、何かあれば相談に来ていただくようお願いをしている。行事など参加していただくよう案内して、参加してもらってる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族の希望、意向を伺い可能な限りそっている。日々の関わりの中でお話、表情、仕草などで汲み取るように心掛けている。ご利用者の担当職員も決めて、必要時カンファレンスを開きご利用者主体の支援が出来るよう努めている。	思いや意向は日々の関わりの中で聞き出すように心がけている。救急車の音で不安を感じ落ち着かない利用者、離脱願望の強い利用者に対しカンファレンスで検討し支援に心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、ケアマネ、知人、病院、施設から情報を貰い把握するように努めている。居室内には使い慣れた物を持って来てもらい落ち着ける環境になるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの生活のリズムを把握し、状況を記録、職員全体が把握できるようにしている。ユニット会議、カンファレンス等でも把握できるよう努めており趣味、特技を発揮できるよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の状況を見極め、家族や担当医と連携をとりながらカンファレンスを行い、支援につなげる。カンファレンス、ユニット会議などで話し合い介護者が統一した支援が出来るように努めている。	必要時に家族、かかりつけ医と連携をとりながら、カンファレンスを行いケアプランを見直し担当者会議で検討し職員間で統一した支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、対応等記録している。ミーティングを通して職員間で情報を共有、介護計画の見直しに役に立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への通院支援、入退所時の対応、ご家族が希望されれば宿泊、食事も用意、誕生会にはご家族に声を掛け一緒にお祝いに参加してもらっていたが、今かコロナで出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スポーツセンターで大会、福祉の里祭り、音楽会、合同作品展等見学等、今までは参加していたが、コロナに為出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院へ定期受診を行っている。月に1度の往診。必要時、往診をお願いしている。ご家族へ受診相談。報告。又、お便りで、受診状況を報告している。	協力医による月に1度の訪問診療、必要時には往診を依頼している。受診対応は職員が行い、その都度家族に報告している。緊急時やインスリン治療中の利用者の対応をデイサービスの看護師に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイの看護師に連絡、相談している。心配な時はかかりつけ医でなくても相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室と連絡をとり、退院に向けての話し合いをしている。入院時はほぼ毎日洗濯物の支援をかねて、ご利用者の状態の把握を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルが近いと感じたら、ご家族と今後のこととお話をする。かかりつけ医に相談、ご家族さんに連絡して医師とお話をさせていただく。体調の変化を逐一連絡、ご家族の希望にそって、ご家族の後悔がなるべく少なくなるように支援、援助をさせていただいている。	終末期には、今後のことを家族やかかりつけ医と頻りに連携を取り、病状変化を連絡、家族の希望に沿うように支援している。現在1名看取り希望の利用者がいる。	看取りの指針を作成し、職員間で認識を深めてはどうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けて緊急事態の対応が出来るように取り組んでいる。車椅子、歩行器等の点検を月に2回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで避難訓練を年2回実施、職員会議でも取り上げ意識づけをしている。山田地区の防災の集いがある時は出席。災害対策の一環として2ヶ月に一度自主点検表でチェックをしている。	コロナ禍だが消防署立会いで火災、夜間想定避難訓練を年2回行った。地域との協力体制がこれからの課題である。	今後、地震・風水害に対する訓練の検討、及び、備蓄に対しての話し合いをしてはどうか。地域との協力体制を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に、プライバシーを損ねない言葉掛けや入浴、排泄介助等、気をつけている。排泄時は必要な介助の時以外は現場をはなれる。接遇マニュアルに添って勉強し職員の意識向上を図っている。	一人ひとりの人格を尊重した言葉がけや対応など月目標をフロアに掲示している。8月に研修を受け、ホーム独自の行動指針を作成した。接遇セルフチェック表を活用し職員の意識向上を図っている。	接遇セルフチェック表を定期的に行い、自己の振り返りにつながるよう期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自分の思いを話しやすいように、又自分で決められるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調、ペースに合わせてできる限り希望に添えるよう取り組んでいる。塗り絵、パズル、ちぎり絵、計算問題、読書、縫い物、家事手伝いなど		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望されたら、洋服や帽子、メガネ、など一緒に買いに行ったり、何十年来行きつけの理髪店にお連れしたりしている。今年はコロナの為、外出は出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で食べたいと言われるものを聞き取りメニューに入れている。旬の食材を使って季節感を味わってもらっている。食事の写真と、コメントも添え、記録して、今後の参考にしている。	★利用者に希望の料理を聞き、メニューに取り入れている。敷地内にある畑で野菜を収穫したり、鍋パーティー、カニ汁、庭で炭火焼のサンマ、焼き芋など、季節を感じられる工夫をしている。	献立作成の負担感を少なくするよう工夫してはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の記録。摂取状況に合わせて、トロミの使用、寒天ゼリー等で必要量摂れるようにしている。食事は本人に合わせた量、形態で提供。食べられない時は好きなもの、食べたいと言われる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり声掛けや付き添って口腔ケアをしている。本人の希望にそって、短時間でも義歯を洗浄剤につけて消毒している。ケアプランに口腔ケアを盛りいれ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使って排泄状況をチェック、一人ひとりの排泄パターンを把握、出来る限りトイレにて排泄できるよう取り組んでいる。	排泄チェック表で排泄状況を確認している。リハビリパンツ、布パンツの利用者はトイレで排泄出来るよう取り組んでいる。	介護用リフトがあるため、それを活用し、安全安心の関りを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方にはお茶ゼリー、牛乳を提供、水分摂取量もチェックして、水分摂取を心掛けている。リハビリ体操、散歩などの運動。食物繊維が多い食物の摂取を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそっていつでも入浴が出来るように支援している。ゆず湯など季節感も味わってもらっている。	★三朝温泉の源泉があり、おおむね1日3人、週に2回は入浴しているが、毎日入浴する利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には時間をおくなど声掛けを工夫している。ゆず湯やしょうぶ湯などで季節を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの行動パターンに合わせて就寝時間、起床時間が無理のないようにしている。眠られない時には一緒にお茶を飲んだり、お話しをして、落ち着かれたら休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬情報をケース記録にとじ、いつでも見ることができるようになっている。新しく処方されたら記録し内容を職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を手伝ってくださったり、地域内の散歩、歌を一緒に歌う。希望の物の買い物、一人ひとりが持っている力にあわせて、日々の役割や生活に張り合いが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナに気をつけて、本人希望のもと、理髪店、鯛焼き屋、パン屋に出かけている。花見、紅葉狩りを目的にしたドライブに出かけ、紅葉狩りの時お弁当を持参し食べて帰ってきた。前庭で焼き芋をしたり、炭火で秋刀魚を焼いて食べた。	コロナ禍だが天気の良い日は敷地内や地区のごみステーションへペットボトルを捨てに行く。そこで住民とおしゃべりすることもある。★時には町外のたい焼き屋、パン屋へ出かけたり、弁当を持参して紅葉狩りドライブを楽しんだ。家族からメールで外泊希望があり、本部に相談し外泊できたケースもあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はお金を所持され自由にほしい物を買われている。管理出来ない方は職員と一緒に出掛け品物選びから支払まで出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも自由に電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音量等気をつけている。ソファ、テーブルの配置などに気を配っている。テーブルに、散歩で見つけた季節の花など飾っている。季節を感じられるように展示物もしている。	浴室、トイレもきれいに整頓されている。フロアーは大きな窓があり暖かい日差しが差し込んでいる。ゆったりとしたソファとテーブルが設置されている。利用者のギターに合わせて職員と一緒に歌ったり、軽い体操をしたりゆったりと過ごせる共用空間となっている。	ソファと物干しの位置を工夫し、利用者がくつろげるよう配慮してほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子、ソファ等それぞれ自分の落ち着く所を見つけそこが居場所になっている。季節によっては陽あたりのいい椅子に移動され居眠りをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた物を持って来ていただいている。ご家族の写真や、馴染の物を持って来て頂き、不安感がなく居心地のよい場所となるように配慮している。	居室にはベッド、ロッカー、洗面台、入り口近くの壁に温度、湿度計で管理し、居室不在時を利用して換気に努めている。	馴染みの写真や利用者の作品などを飾って、さらに利用者らしい居室を工夫してほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー、通路に障害物がなく安全に生活ができるよう工夫している。部屋が分からなくなる方には、入り口になまえを書いて貼っている。入所時はトイレが分からなくて不安にならないように、位置がわかるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400454		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	グループホームみのりかじか(2階 かじか)		
所在地	鳥取県東伯郡三朝町山田653-1		
自己評価作成日	令和 2 年12月 20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和3年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方一人ひとりの思いを大切に安心して安全な生活が送れるよう支援している。利用者さんの状況を密に報告・相談しご家族との関係がうまくいこうと努めている。お風呂はラジウム温泉を源泉からひいており心も体もゆったりと寛いでいただいている。夏は熱中症対策として、経口補水液を作り飲んでいただいている。冬はインフルエンザ予防のため紅茶を飲んでいる。年間通して、温度、湿度管理に努めている。コロナ禍の中感染予防のため、こまめな手洗い、手指消毒。手が触れるドアノブ、手すり、椅子、ソファ等(1日3回)消毒している。今年度はコロナ禍の為、家族様との面会も思うように出来ないため、利用者様のストレスがたまらないように3室に気をつけて、花見、紅葉狩り、散歩、花壇を作った。来年はリモートによる面会を開始します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成29年度より、新たに理念を作り、毎朝申し送り時に理念を唱和して、意識づけをしている。ミーティング、ユニット会議で振り返りを行い日々の支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三朝町内の行事に参加、スーパーへ買い物、「縁満」へ外食、喫茶。地区内散歩、なじみの理髪店へお連れしている。地区内で音読教室を開催、地域交流会には地区の方が参加して下さっていたが、今年度はコロナの為出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者は地域に出て地域の方との交流が困難な状態になられた為、職員が地域の一斉清掃に参加。音読教室の時に認知症に関する情報提供をしている。今年度はコロナの為出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、活動報告、気づき、事故報告等を報告、助言を頂き、意見交換を行っている。コロナの為書面を送り意見、質問があれば書面で送っていただき再度運営推進会議録を送っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で情報提供、アドバイスをいただいている。困ったことが発生した時は役場に相談にいつている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加、勉強会でご利用者のリスクを話しあい、ケアの振り返りを行い、危険度の高い方は見守りのしやすい所へ、居室の変更、身体拘束・虐待防止委員会を設置し取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修、勉強会の実施、日々の生活の事で話し合い振り返りながら防止に努めている。毎日の申し送りの時にも、話しあって実践に繋げている。身体拘束・虐待防止委員会を設置し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修があれば参加している。現在1名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用される方には、入所前に面接を行っている。施設の見学、通信等を見て頂き、施設の様子を把握していただけるよう努めている。ご家族の思いもお聞きしている。契約時に重要事項、リスク等説明、納得いただいて、契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みのり福祉会の中に、高齢者福祉部会があり、共通のアンケートを実施している。アンケート結果を職員会で報告、改善できる事を話し合いをする。運営推進会議でも報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、職員会で意見、要望等話し合い業務に反映させている。職員会に本部からも参加があり職員の思いは本部にも届くようになっている。管理者会議も開催され運営に反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で資格取得に向けた支援を行ったり、研修に出来る限り参加してもらっている。向上心が持てるように努めている。移動願いへの心配りもされている。給料の見直しもされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はホームを訪れ職員の勤務状態を把握している。毎月の勉強会、外部研修に参加し職員に伝達講習をしている。接遇委員会が設置され委員の人を中心に取り組んでいる。新任職員研修、中堅職員研修、管理者研修も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修、町内の福祉施設による。「三朝なんとかしろう会」地域に対しての取り組みや、情報の共有を図っている。町内スポーツ大会では他施設とチームを作り参加。認知症カフェも月1回担当。今年度はコロナでできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接、施設の見学など関わりを多く持ち、本人の思い、不安等お聞きしている。少しでも安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族とお話しをして、利用者の方への思いをお聞きし、どのような支援が出来るか話し合う、感じた事、希望、意見、要望など遠慮なくお話しして下さるようお願いしている。近況もお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネよりの情報、認定情報、入所施設よりの情報、ご家族の思いなどを元に、安全に生活が送れるように最初、1ヶ月の支援計画を作り、日常生活が上手にいくか観察し、3ヶ月のサービス計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしながら職員がしてあげるのではなく一緒にすることを大切にして、本人の持っている力を発揮していただけるよう支援している。家事、料理、買い物と一緒にしている。高齢化、介護度が高くなり思うようになかなかしてあげられない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話や毎月お送りするお便り等で、日々の様子、診察結果をお伝えしている。ご家族の思い等お聞きし、今後のことも相談して、一緒に本人を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スポーツ大会や福祉の里祭りに参加、当施設の主催する地域交流会に地域の方をお招きして馴染みの方とお話や写真を撮る等関係が途切れないようにしている。今年度はコロナの為出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士お話しが出来る方、他ご利用者と馴染まない方それぞれであるが、孤立されないよう職員が間に入り支援している。又トラブルが起きないように席のセッティングに気をつけている。必要に応じてユニットの移動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事や、何かあれば相談に来ていただくようお話しをしている。行事など参加していただくよう案内して、参加してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族の希望、意向を伺い可能な限りそっている。日々の関わりの中でお話、表情、仕草などで汲み取るように心掛けている。ご利用者の担当職員も決めて、必要時カンファレンスを開きご利用者主体の支援が出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、ケアマネ、知人、病院、施設から情報を貰い把握するように努めている。居室内には使い慣れた物を持って来てもらい落ち着ける環境になるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの生活のリズムを把握し、状況を記録、職員全体が把握できるようにしている。ユニット会議、カンファレンス等でも把握できるよう努めており趣味、特技を発揮できるよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の状況を見極め、家族や担当医と連携をとりながらカンファレンスを行い、支援につなげる。カンファレンス、ユニット会議等で話し合い介護者が統一した支援が出来るように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、対応等記録している。気づきノートの作成、ミーティングを通して職員間で情報を共有、介護計画の見直しに役に立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への通院支援、入退所時の対応、ご家族が希望されれば宿泊、食事も用意している。誕生会にはご家族に声を掛け、一緒にお祝いに参加してもらっていたが、今コロナで出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スポーツセンターで大会、福祉の里祭り、音楽会、合同作品展など見学等、今までは参加していたが、コロナの為できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力病院へ定期受信を行っている。月に1度の往診、必要時往診をお願いしている。ご家族へ受診相談。報告。又お便りで、受診状況を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイの看護師に相談している。心配な時はかかりつけ医でなくても相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室と連絡をとり、退院に向けての話し合いをしている。入院時はほぼ毎日洗濯物の支援をかねて、ご利用者の状態の把握を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルが近いと感じたら、ご家族と今後のこととお話する。かかりつけ医に相談、ご家族さんに連絡して医師とお話をさせていただく。体調の変化を逐一連絡、ご家族の希望にそって、ご家族の後悔がなるべく少なくなるように支援、援助をさせていただいている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けて緊急事態の対応が出来るように取り組んでいる。車椅子、歩行器等の点検を月に2回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで避難訓練を年2回実施、職員会議でも取り上げ意識づけをしている。梁田地区の防災の集会がある時は出席、災害対策の一環として2ヶ月に一度自主点検表でチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に、プライバシーを損ねない言葉掛けや入浴、排泄介助等、気をつけている。排泄時は必要な介助の時以外はその場をはなれる。接遇マニュアルに添って勉強し職員の意識向上を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自分の思いを話しやすいように、又自分で決められるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調、ペースに合わせてできる限り希望に添えるよう取り組んでいる。塗り絵、パズル、ちぎり絵、計算問題、読書、縫い物、家事手伝いなど		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気分転換を兼ねて、お話をしながら、化粧をしたり、マニキュアをして、楽しんでいる。自分でその日着たい服をえらんできていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で食べたいと言われるものを聞き取りメニューに入れている。旬の食材を使って季節感を味わってもらっている。食事の写真と、コメントも添え、記録して、今後の参考にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の記録。摂取状況に合わせて、トロミの使用、寒天ゼリー等で必要量摂れるようにしている。食事は本人に合わせた量、形態で提供。食べられない時は好きなもの、食べたいといわれるものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり声掛けや付き添って口腔ケアをしている。本人の希望にそって、短時間でも義歯を洗浄剤につけて消毒している。ケアプランに口腔ケアを取り入れ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使って排泄状況をチェック、一人ひとりの排泄パターンを把握、出来る限りトイレにて排泄できるよう取り組んでいる。オムツ使用の方も排便の時は、トイレに座ってもらい排泄を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方にはお茶ゼリー、牛乳を提供、水分摂取量もチェックして、水分摂取を心掛けている。リハビリ体操、散歩などの運動。食物繊維が多い食物の摂取を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそっていつでも入浴が出来るように支援している。ゆず湯など季節感も味わってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの行動パターンに合わせて就寝時間、起床時間が無理のないようにしている。眠れない時には一緒にお茶を飲んだり、お話しをして落ち着かれましたら休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬情報をケース記録にとじ、何時でも見ることが出来るようにしている。新しく処方されたら記録し内容を職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を手伝ってくださったり、地域内の散歩、歌を一緒に歌う。希望の物の買い物、一人ひとりが持っている力にあわせて、日々の役割や生活に張り合いが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナに気をつけて、施設の近所を散歩している。花見、紅葉がりを目的にドライブに出かけ紅葉狩りの時お弁当を持参して食べて帰ってきた。前庭で焼き芋をしたり、炭火で秋刀魚をやいて食べた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はお金を所持され自由にほしい物を買われている。管理出来ない方は職員と一緒に出掛け品物選びから支払まで出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも自由に電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音量等気をつけている。ソファ、テーブルの配置などに気を配っている。テーブルに、散歩で見つけた季節の花など飾っている。季節を感じられるように展示物もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子、畳の所、ソファ等それぞれ自分の落ち着く所を見つけそこが居場所になっている。季節によっては陽あたりのいい椅子に移動され居眠りをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた物を持って来ていただいている。ご家族の写真や、馴染の物を持って来て頂き、不安感がなく居心地のよい場所となるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー、通路に障害物がなく安全に生活ができるよう工夫している。部屋が分らなくなる方には、入り口になまえを書いて貼っている。入所時はトイレが分らなくて不安にならないように、位置がわかるようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	看取りの指針に基づいて、職員間で認識を深めていく。	看取りのマニュアルを作成していく。	職員が安心して看取れるようにマニュアルを作成する。 マニュアルを基に、デイナースを中心に勉強をしていく。	3ヶ月
2	13	地震、風水害に対する訓練が出来ていない。 備蓄は米、水、携帯コンロ、ポンペの準備をしていた。	地震、風水害の訓練を行う。 災害用のレトルト食品を準備する。	予算を取り購入する。 実際に作って、試食し、備蓄品を再検討していく。 地域に協力体制をお願いしていく。	6ヶ月
3	5	離床センサーを家族同意にて介護計画に記載して使用している。 経過観察をして、必要かどうか検討をしているが、記録に残してなかった。	センサーが必要かどうか話し合った内容を、記録に残す。	使用する時、同意書をとる。 毎月モニタリングを行い、記録を残す。	1ヶ月
4	16	介護用リフトを以前は使用していたが、現在使用できるレベルの方がおられなくて使用していなかった。	介護用リフトを活用する。	介護用リフトが何時でも安全に使えるように、訓練を、職員間で行う。	3ヶ月
5	15	献立作成の負担感がある。	献立作成の負担感を軽減していく。	法人施設の管理栄養士の、献立を参考にさせてもらう。	2ヶ月
6	6	コロナ禍であり今以上に、家族との連携を図ってほしい。	ご利用者様の様子を視覚化する。	リモート面会を、施設側から積極的に取り組む。 ご利用者様の様子を写真にとり毎月送る。	3ヶ月
7	14	ホーム独自の行動指針を作り、接遇セルフチェック表を活用し意識向上をはかっている	ホーム独自の行動指針を基に接遇セルフチェック表を活用していく。	接遇セルフチェックを毎月一回行い、自己の振り返りをしていく。 法人全体での接遇の取り組みもあり、自己の振り返りをしていく。	1ヶ月
8	20	馴染みの写真や利用者様の作品を飾ってあるが、飾っていない部屋も多々ある。	色彩豊かな部屋を作る。	ご家族様の写真やご本人の写真、作品等飾っていく。	3ヶ月
9	19	施設内の湿度を保つために、フロアの日当たりのいい場所に洗濯物をほしていた。	寛げるような空間を作る。	日当たりのいい空間をご利用者様が寛げるような設定をする。	1ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。